

# 中病だより

## 第4号 島根県立中央病院

(2008.10月発行)



### 目次

- 婦人科内視鏡手術について  
産婦人科 吉野 直樹・・・P1
- 認定看護の活動報告第2弾  
がん化学療法認定看護師 奥野映子・・・P2
- 認定看護の活動報告第3弾  
新生児集中ケア認定看護師 遠藤智弘・・・P3
- 救命救急支援業務を開始して  
薬剤局薬剤科 寺西 正充・・・P4
- 病院機能評価を受審して  
事務局総務グループ 宇原 均・・・P5
- けんこう広場2008を開催します・・・P6

### ■ 婦人科内視鏡手術について

産婦人科 吉野直樹



婦人科内視鏡手術は大きく分けると2つに分かれます。一つはお腹に何ヶ所か傷(5~12mm)をいれ行う腹腔鏡下手術であり、もう一つは子宮の入り口から行う子宮鏡下手術です。今回は腹腔鏡下手術を中心にお話します。

腹腔鏡下手術は、おへそに小指が入るほどの穴を開けてカメラおよびガス(二酸化炭素)を入れ、下腹部とおへその横の計3か所切って、色々な種類の鉗子(かんし、臓器をつかんだり寄せたりする道具)、はさみやその他の器具を入れ、カメラのモニターを見ながら病巣部を切除したり縫合(ぬい合わせる)こと)します。

腹腔鏡下手術は、子宮外妊娠、卵管の病気{癒着(臓器どうしがくっつくこと)、クラミジア感染症、閉塞など}、卵巣腫瘍(癌を除く)、子宮筋腫などに行います。子宮外妊娠には、卵管を切除する方法と卵管の中の子宮外妊娠部分のみを切除する方法があります。卵管の病気には、卵管が他の臓器とくっついているのを剥がしたり、卵管の先が閉じているのを開いたりしますが、不妊症を治療する目的で手術をすることが多いと思います。卵巣腫瘍には、漿液性腫瘍、粘液性腫瘍、皮様嚢腫、チョコレート嚢腫など様々な種類があります。いずれも腫瘍部分を切除し正常部分を残すように手術を行っています。子宮筋腫には、子宮筋腫の部分のみを摘出する手術と子宮全体を摘出する手術があります。

いずれの疾患でも簡単に終わる手術から非常に難しい手術まであります。疾患部分が小さかったり(子宮外妊娠等)、卵巣腫瘍の内容物を吸引し小さくして12mmの傷から体の外に出すことができれば、その部分を肉眼で確認し手に持って手術を行うこ

とができるので比較的簡単にできます。ところが、癒着がひどかったり、12mmの傷から体の外に出すことができない時には、お腹の中で癒着をはがしたり、電気メス等で切ったり、針付き糸をお腹の中に入れ縫ったり結んだりしなければなりません。簡単な手術は1時間くらいで終わることもありますが、難しい手術では5時間くらいかかることもあります。相当練習を重ね、こういった技術を習得することにより安全に腹腔鏡下手術を行うことができます。

島根県立中央病院産婦人科では、1994年より腹腔鏡下手術を開始しました。現在は年間80件程度の手術を行っており、緊急の手術にも対応しております。現在までに約800件の腹腔鏡下手術を行いました。腹腔鏡下で悪性腫瘍の手術は行っておりませんが、日本で行われている腹腔鏡下手術の大部分の手術を行うことができます。ただ、腹腔鏡下手術を希望される方が多く、現在2～3ヶ月待ちとなっております。

腹腔鏡下手術は特殊な技術が必要なため日本産科婦人科内視鏡学会が技術認定をしており、筆者は「日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医」として手術を行っております。腹腔鏡下手術は、美容面、社会復帰が早い、術後癒着が少ないなど様々な面で優れているため、今後益々盛んに行われると考えます。



## ■認定看護師の活動報告 第2弾

がん化学療法看護認定看護師 奥野映子



皆様こんにちは。私は平成18年に日本看護協会が認定する「がん化学療法看護認定看護師」として登録され、外来化学療法室を拠点として、外来・病棟ともにがん化学療法を受けられる患者さん・ご家族の支援を継続的に行っています。

院内における主な活動は、がん治療の一つである、がん化学療法＝抗がん剤治療の投与管理や、患者さん・ご家族の方への副作用対策の提案、治療を決定する際の支援、そして、これらの治療を支える看護師スタッフへの指導や相談を行っています。また、院内の緩和ケアチームにも所属しています。外科医師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、メディカルソーシャルワーカーと共に、がんによる痛みやその他の症状のある患者さんの症状緩和対策やご家族の療養上の支援を目的に、チームメンバーと共に週1回の病棟廻診やカンファレンスを開催し継続的な支援を行っています。

指導については、院内5年目以上の看護師のキャリアアップを図るテーマ別研修において、「がん看護コース」を企画し、6ヶ月間のプログラムで、がん看護に携わる看護師を育成するための教育も行っています。

一方、院外活動では、がん化学療法看護の講師として県内の病院での研修会や島根県看護協会主催の緩和ケアアドバイザー養

成研修の講師を務めたり、肺がん・乳がん学会での発表など充実した活動を行っています。

患者さんが、がん化学療法を確実に、安全に、安楽に受けられるよう、職種を越えて、お力になればと思います。いつでもご相談ください。



### ■認定看護師の活動報告 第3弾

新生児集中ケア認定看護師 遠藤智弘



新生児集中治療室（NICU）は、早産児や低出生体重児、疾患をもって生まれた新生児が入院する病棟です。私は新生児集中ケア認定看護師として NICU で勤務しています。新生児集中ケア認定看護師とは、入院した新生児とその家族へ、専門的な知識・技術を用いて、より質の高い看護を実践する看護師です。また、NICU の看護師誰もが同じレベルのケアが提供できるよう指導を行うことや、新生児集中ケア領域で発生

する問題について相談に応じることも主な役割です。

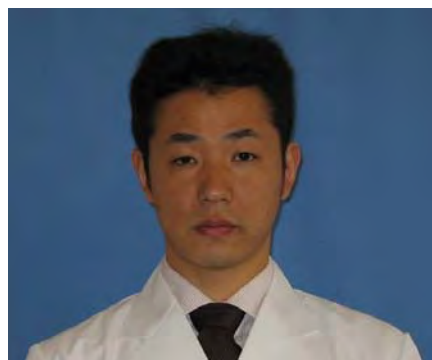
現在の主な活動としては、出生体重が 1000g 以下の超低出生体重児のケアを見直し、より根拠に基づいたケアを考える会を毎月行っています。超低出生体重児にとっては、オムツ交換や清拭といった日常的なケアでさえもストレスとなるため、より負担の少ない方法を、文献などを基に検討しています。また、新人看護師が NICU 看護を実践するに当たって必要な基礎知識を学ぶ勉強会も毎月企画し、開催しています。

今後の活動としては、2007 年の 11 月に新生児蘇生法講習会インストラクターとして認定を受けましたので、標準的な新生児蘇生法の習得を目的とした講習会を計画しています。院内のみならず、周辺地域の新生児蘇生法のスキルアップに協力できればと考えています。

中央病院の NICU に入院して良かったと、新生児とご家族みんなに思ってもらえるような、そんな病棟になるように、認定看護師として尽力していきたいと思っています。

### ■救命救急支援業務を開始して

薬剤局薬剤科 寺西 正充



最近、救命救急医療の領域で医療チームの一員としての薬剤師の参加に関心が高ま



っています。当科でも今年4月から救命救急外来、集中治療室、救急病棟（以下「救急部門」とする。）において、365日体制で日勤帯から夜間21:30まで救命救急支援業務を開始し、主に薬剤管理指導業務、カンファレンス参加、医薬品管理などを行っています。

具体的には、救急病棟、集中治療室へ入室の患者さんまたはご家族と面談して、毎日飲んでいる薬の内容、副作用の有無などの情報を収集し、常用されている薬を持参された場合は、鑑別して医師、看護師へ情報提供し適正な薬物療法ができるよう支援しています。当院から処方された飲み薬や注射薬の効果、副作用について患者さんまたは家族へ説明を行います。意識障害等により直接説明が困難で、ご家族も不在の場合は、薬の投与量、投与方法、投与速度、相互作用、重複投与、配合変化、配合禁忌等について確認して、状態を適宜確認しながら効果、副作用等の状況を把握し、医師、看護師へ情報を提供しています。救急部門の医師で実施されるカンファレンスへ出席して収集した治療方針等の情報は、薬剤管理指導業務に活かすようにしています。

救急部門への配置医薬品や救急カート医薬品の使用期限、保管方法、麻薬・向精神薬・毒薬・劇薬・冷所保管薬の保管管理は適切か点検も行っています。

医師・看護師からの医薬品に関する疑義への回答は随時対応していますが、業務を開始してみて、薬についての多種多様な質問を患者さん及びご家族のみならず医師、看護師など医療スタッフから受けることが多く、薬の専門家としての薬剤師への期待を強く感じます。

今後は、医療チームの一員として医師、医療スタッフとの連携を深めながら、患者

さんへ安全で適切な医療を提供するためには薬剤師になにが求められているか、薬剤師としてなにができるかを考え業務を展開していきたいと思っています。



#### ■病院機能評価を受審して

事務局 総務グループ 宇原 均



皆さんは「病院機能評価」という言葉をご存知でしょうか。

「病院機能評価」とは、財団法人医療機能評価機構が病院の審査を行い、病院の優れている点や改善すべき問題点を示します。そして機構が定める基準を満たした病院には認定書が交付されるというものです。当院は、これまでバージョン3、バージョン4の認定を受けてきましたが、今回、さらに基準が厳しくなったバージョン5を受審し、認定を受けることができました。

当院は、患者さんに質の高い医療を提供することを目指しています。「質の高い医

療」とは、単に「重症の病気やケガを治すことができること」だけでなく、医療従事者の確保、院内の安全性・快適性・利便性の向上、職員の倫理向上、患者さんのプライバシー保護、患者さんへの説明と同意、他施設との連携、健全な運営・・・が適切に提供・確保されていなければなりません。それを第三者の目でチェックしてもらうことが、病院機能評価の受審です。

受審にあたり、石野医療局次長（現薬剤局長）を中心にワーキングチームを結成し、その先導のもと全職員が職種を超えて、一丸となって受審に取り組みました。病院機能評価のチェック項目数は532ありますが、それに基づいて、感染性廃棄物処理、針刺し等の医療事故防止、医療安全、病棟ごとの目標設定、電子カルテの改良、職員の研修、マニュアル等の規定整備、薬剤管理、院内の整理整頓など、多くの項目について見直し、改善しました。また、職員、患者さんのご理解を得て敷地内禁煙を英断しました。

今回の認定により、島根県立中央病院が「質の高い医療」を患者さんに提供していることを改めて示しました。そして、職員にとっても大きな自信と誇りになりました。これを励みに、今後も更なる「質の高い医療」を患者さんに提供できるようたゆまぬ努力を行っていきたいと思います。



病院にとって、院内の危機管理体制も重要な点です。写真は、病院に不審者が侵入したという想定で訓練を行った際の1シーンです。



## ■編集後記

「中病だより」の目的の一つは島根県立中央病院についてもっとよく知ってもらおうというものです。また、来る11月1日に企画されている「けんこう広場2008」も島根県立中央病院を地元の人々にもっと知ってもらおうというものです。少しずつでも情報や知識を発信しつづけ、生（なま）の姿を提供できれば幸いと考えております。今回から寄稿者の写真を復活したのもその意図からです。（K. T.）



島根県立中央病院広報誌

〒693-8555 島根県出雲市姫原4丁目1-1

TEL0853-22-5111 FAX0853-21-2975

2008.10 題字 岩成 治

## ■「けんこう広場 2008」を開催します！

現代の医療は、一昔前に比較して複雑・高度になった結果、けた外れに多くの機器・高度な技術・多くの医療従事者が要求されています。しかし、その実際はほとんど知られていないのが現状と思われます。そこで、島根県立中央病院の中で「どんなことが行われているか、そのレベルはどの程度のものなのか」など、少しでも市民の皆さんに知っていただけのようなイベントを企画いたしました。

救急医療講演会では、当院の「断られない救急診療」がどのようにして維持されているか。ドクターカーやヘリコプター搬送はどうなっているか。震災などの大災害時に備えて、どのようなスタッフが準備をしているのかなどを紹介します。

パネル・ポスター展示では、がん診断・治療のためにはどんな機器（最新放射線治療機器など）があるか、また院内の衛生管理はどのように維持・運営されているのかなど、医療を支える裏舞台などにもスポットライトを当てて展示説明いたします。

余り硬いことばかりでは退屈と思い、たこ焼き、おにぎり、わたがしなどの屋台、お茶席、人形劇、音楽演奏なども用意して、多くの皆さんに楽しんでもらうように当院のスタッフが腕をふるってお待ちしております。

楽しみながら健康のためになることまちがいありません、ぜひご近所お誘いあわせの上、多くのかたの参加をお待ちしております。

日 時 2008年11月1日（土曜）  
12:00～16:00

場 所 島根県立中央病院

催し内容

救急医療講演会（12:30～14:00）

パネル・ポスター展示

（がん診療の啓発、いくつかの診療科からの紹介など）

検査体験コーナー、お茶席、銭太鼓、人形劇、よさこい、ダンスなど

屋台（たこ焼き・わたがし・ポップコーン・アメリカンドッグ・

カレー・焼き鳥・うどん・おにぎりなど）

※当日チケットを販売します。



楽しくてためになる催しがいっぱいです。